

〈経営基盤確立と生活向上に現場からの提言〉

北海道酪農協会は昭和22年の設立以来、酪農家による酪農家のための意志結集機関・運動体として、北海道酪農の振興と酪農家の地位・生活の向上を柱に活動してきました。

この目的達成に向けては全国酪農協会、日本酪農政治連盟（酪政連）に加入し、全国酪農家との連携を強化し運動の実施に当たってきました。その際、北海道としての意志・主張について全国団体を通じて政策決定の場に投げかけるとともに、全国の酪農家・団体との調整役も担いつつ行動してきました。

今世紀は自然との共生が叫ばれ、酪農の時代の到来を感じてはおりますが、口蹄疫やBSEに代表される各種悪性伝染病の発生問題、国内の牛乳乳製品の需要構造変化に伴う牛乳消費の減退、健康志向に伴う動物性油脂の敬遠など、わが国酪農を取り巻く環境は決して楽観できるものではありません。また、途上国の経済発展と豪州の干ばつを背景とする国際的な乳製品価格の上昇と、地球温暖化に伴うバイオエネルギーへの転換による飼料原料穀物の価格上昇など、まさに酪農・畜産を取り巻く環境が激変しています。一方、わが国消費者の食の安全性に対する関心も一層高まっています。

こうした情勢に対応し、食料の国内生産の必要性を強く訴え、それを担保し酪農経営を支える制度・施策が重要になっております。協会は、北海道酪農の展望を拓くため、酪農家の抱える諸問題を共有化し、生産現場の視点で政策決定に臨む使命を全うしていきます。

今後とも、酪農家の皆さまの一層の積極的な参画、現場からの問題提起と施策の提案・提言をお願い申し上げます。